

東邦大学・医学部

試験日 2023年2月7日 時間90分 **数学I** **数学II** **数学III** **数学A** **数学B** (数列, ベクトル)

- 1** 1つの問題には4つの選択肢があり、この選択肢の中から正しいものを1つ解答する。問題が全部で5題あり、それぞれの問題に対して1つの選択肢を無作為に選んで解答するとき、4題以上正解する確率は $\frac{\square}{\square}$ であり、少なくとも2題正解する確率は $\frac{\square}{\square}$ である。
- 2** 実数 x, y がそれぞれ $\frac{1}{\log_3 x} - \frac{1}{\log_2 x} = \frac{1}{3}$, $\frac{1}{2^{3y-1}} + \frac{1}{8^{2y-1}} = 1$ を満たすとき、 $x = \frac{\square}{\square}$, $\log_x y = \frac{\square}{\square}$ である。
- 3** 座標空間において、3点 $A(2, -1, -5)$, $B(1, 0, -4)$, $C(-1, 3, 1)$ の定める平面を α とする。点 $P(a, a, a)$ が平面 α 上にあるとき、 a の値は $a = \frac{\square}{\square}$ である。点 $Q(b, c, -7)$ があり、直線 AQ が平面 α に直交するとき、 b と c の値はそれぞれ $b = \square$, $c = \square$ である。
- 4** $\triangle ABC$ において $AB = 5$, $BC = 2\sqrt{6}$, $CA = 3$ とする。 $\triangle ABC$ の外接円の半径は $\frac{\square\sqrt{\square}}{\square}$ である。 $\triangle ABC$ の外心を O , $\angle A$ の二等分線と辺 BC の交点を D とするとき、 $OD = \frac{\square\sqrt{\square}}{\square}$ である。
- 5** x, y, z を整数とする。 $3x - 23y = 104$ を満たすとき、 $|2x - 3y|$ の最小値は \square である。 $5x - 9y - 2z = 18$ および $-6x + 2y + 3z = 25$ を満たすとき、 $|x + y + z|$ の最小値は \square である。
- 6** 複素数平面上に、異なる3点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(\gamma)$ と、 $z = \frac{2\alpha - 3\beta + 6\gamma}{5}$ を満たす点 $P(z)$ がある。直線 AP と直線 BC の交点を Q とすると、 $\frac{AP}{AQ} = \frac{\square}{\square}$ である。また、直線 AC と直線 BP の交点を R とすると、 $\frac{BP}{BR} = \frac{\square}{\square}$ である。
- 7** m, n を自然数として、 $S_n(m) = \sum_{k=1}^n k^m$ とする。このとき、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\{S_n(1)\}^3}{\{S_n(2)\}^2} = \frac{\square}{\square}$, および $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\{S_n(3)\}^3}{\{S_n(5)\}^2} = \frac{\square}{\square}$ が成り立つ。
- 8** 2つの変数の組 (x, y) についてのデータがあり、変数 x の分散は9、変数 y の分散は4、 x と y の相関係数 r は $0 \leq r \leq 1$ の範囲の値をとることがわかっている。このとき、 x と y の共分散 C のとり得る値の範囲は $\square \leq C \leq \square$ である。また、変数 z を $z = x - y$ で定めるとき、 z の分散 V のとり得る値の範囲は $\square \leq V \leq \square$ である。
- 9** 座標空間において、不等式 $\frac{10}{3}(x + y + z - 7) \geq x^2 + \frac{y^2}{2} + \frac{z^2}{3} - 7$ の表す立体を E とする。 E と平面 $z = t$ が交わるような定数 t のとり得る値の範囲は $\square \leq t \leq \square$ である。また、 E の体積は $\frac{\square\sqrt{\square}}{\square}\pi$ である。

2 東邦大学・医学部

10 対数は自然対数とする。関数

$$f(x) = (\sin x + \cos x)^{5 \sin x + 5 \cos x + \log(\sin x + \cos x)}$$

について、 $f'(\frac{\pi}{2}) = \square$, $f''(\frac{\pi}{2}) = \square$ である。

1 **数学A** 【独立試行・反復試行の確率】 **基本**

▶解答 1つの問題を正解する確率は $\frac{1}{4}$ である。4題以上正解するのは、4題か5題正解するときであるから、その確率は

$${}^5C_4 \left(\frac{1}{4}\right)^4 \left(\frac{3}{4}\right) + \left(\frac{1}{4}\right)^5 = \frac{1}{64}$$

である。また、「少なくとも2題正解する」ことの余事象は1題以下しか正解しないことであり、その確率は

$${}^5C_1 \left(\frac{1}{4}\right) \left(\frac{3}{4}\right)^4 + \left(\frac{3}{4}\right)^5 = \frac{81}{128}$$

であるから、少なくとも2題正解する確率は $1 - \frac{81}{128} = \frac{47}{128}$ である。

2 **数学II** 【指数・対数方程式】 **標準**

▶解答 底を3に揃えると

$$\frac{1}{\log_3 x} - \frac{\log_3 2}{\log_3 x} = \frac{1}{3}$$

$$\log_3 x = 3(1 - \log_3 2)$$

$$\log_3 x = 3 \log_3 \frac{3}{2}$$

$$x = \left(\frac{3}{2}\right)^3 = \frac{27}{8}$$

である。また、 $Y = 2^{3y}$ とおくと

$$\frac{2}{Y} + \frac{8}{Y^2} = 1$$

$$Y^2 - 2Y - 8 = 0$$

$$(Y + 2)(Y - 4) = 0$$

$Y > 0$ より $Y = 4$ であるから、 $2^{3y} = 4$ となる。よって、 $y = \frac{2}{3}$ となる。このとき、

$$x = (y^{-1})^3 \quad \therefore x^{-\frac{1}{3}} = y$$

となるから、 $\log_x y = \frac{-1}{3}$ である。

3 **数学B** 【平面の方程式】 **標準**

▶解答 α の法線ベクトルを $\vec{v} = (p, q, r)$ とすると、 $\vec{AB} = (-1, 1, 1)$, $\vec{AC} = (-3, 4, 6)$ が \vec{v} に垂直であるから内積をとって

$$-p + q + r = 0 \dots\dots\dots \text{①}$$

$$-3p + 4q + 6r = 0 \dots\dots\dots \text{②}$$

② - ① $\times 4$ より $p + 2r = 0$ となり $p = -2r$ である。これを①に代入し $q + 3r = 0$ となる。 $p = -2r, q = -3r$

となるから、 $\vec{v} = -r(2, 3, -1)$ となる。 $r = -1$ として $\vec{v} = (2, 3, -1)$ を採用する。

$$\alpha : 2(x - 2) + 3(y + 1) - (z + 5) = 0$$

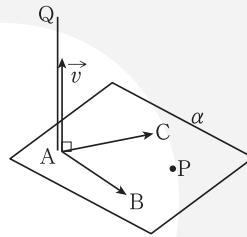
$$2x + 3y - z = 6$$

となる。 $P(a, a, a)$ が平面 α 上にあるから

$$2a + 3a - a = 6 \quad \therefore a = \frac{3}{2}$$

である。また、 AQ が α に直交するとき、 $\vec{AQ} = (b - 2, c + 1, -2)$ が $\vec{v} = (2, 3, -1)$ と平行であるから、 $(b - 2, c + 1, -2) = t(2, 3, -1)$ とおけて z 成分から $t = 2$ となる。

$$b - 2 = 4, c + 1 = 6 \text{ で } b = 6, c = 5$$



4 **数学I** 【正弦定理・余弦定理】 **標準**

▶解答 $\triangle ABC$ において余弦定理より

$$\cos A = \frac{9 + 25 - 24}{2 \cdot 3 \cdot 5} = \frac{1}{3}$$

であるから、 $\sin A = \sqrt{1 - \cos^2 A} = \frac{2\sqrt{2}}{3}$ となる。

$\triangle ABC$ の外接円の半径を R とおくと、 $\triangle ABC$ において正弦定理より

$$\frac{BC}{\sin A} = 2R$$

$$R = \frac{1}{2} \cdot \frac{2\sqrt{6}}{\frac{2\sqrt{2}}{3}} = \frac{3\sqrt{3}}{2}$$

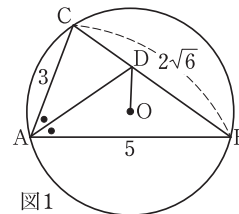


図1

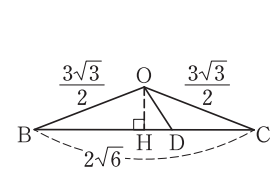


図2

また、内角の二等分線の定理より $BD : DC = 5 : 3$ であるから、 $BD = \frac{5}{5+3} BC = \frac{5\sqrt{6}}{4}$ である。さら

に、O から BC に下ろした垂線の足を H とすると、
BH = CH = $\sqrt{6}$ であり、 $\triangle OBH$ においてピタゴラスの定理より

$$OH^2 = OB^2 - BH^2 = \frac{27}{4} - 6 = \frac{3}{4}$$

となる。DH = BD - BH = $\frac{\sqrt{6}}{4}$ であるから、 $\triangle ODH$ においてピタゴラスの定理より

$$\begin{aligned} OD &= \sqrt{OH^2 + DH^2} \\ &= \sqrt{\frac{3}{4} + \left(\frac{\sqrt{6}}{4}\right)^2} = \frac{3}{2\sqrt{2}} = \frac{3\sqrt{2}}{4} \end{aligned}$$

5 **数学A** 【不定方程式】 **標準**

▶解答 特に断りのない限り、文字はすべて整数とする。

$$x = \frac{23y + 104}{3} = 8y + 35 - \frac{y + 1}{3}$$

であるから、 $k = \frac{y + 1}{3}$ とおくと $y = 3k - 1$ であり、

$$x = 8(3k - 1) + 35 - k = 23k + 27$$

$$x = 23k + 27, y = 3k - 1 \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

とかける。このとき

$$2x - 3y = 2(23k + 27) - 3(3k - 1)$$

$$= 37k + 57$$

である。 $k = -2$ のとき $|2x - 3y| = 17$ 、 $k = -1$ のとき $|2x - 3y| = 20$ であるから、 $|2x - 3y|$ の最小値は 17 である。また

$$5x - 9y - 2z = 18 \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

$$-6x + 2y + 3z = 25 \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

$\textcircled{2} \times 3 + \textcircled{3} \times 2$ より z を消去すると $3x - 23y = 104$ となる。これより、 x, y は $\textcircled{1}$ のようにかけるから、 $\textcircled{2}$ へ代入して

$$5(23k + 27) - 9(3k - 1) - 2z = 18$$

$$z = 44k + 63$$

となるから、

$$x + y + z = (23k + 27) + (3k - 1) + (44k + 63)$$

$$= 70k + 89$$

よって、 $|x + y + z|$ は $k = -1$ のとき最小値 19 をとる。

6 **数学III** 【複素数と図形】 **標準**

▶解答

$$z = \frac{2\alpha + 3 \cdot \frac{-\beta + 2\gamma}{-1 + 2}}{2 + 3}$$

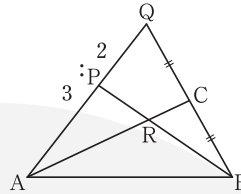
BC を 2 : 1 に外分する点を Q としたとき、P は AQ を 3 : 2 に内分する点である。図を見よ。

これより、 $\frac{AP}{AQ} = \frac{3}{5}$ である。また、 $\triangle ACQ$ と直線 BP についてメネラウスの定理より

$$\frac{RP}{BR} \cdot \frac{AQ}{PA} \cdot \frac{CB}{QC} = 1$$

$$\frac{RP}{BR} \cdot \frac{5}{3} \cdot \frac{1}{1} = 1 \quad \therefore \frac{RP}{BR} = \frac{3}{5}$$

よって、 $\frac{BP}{BR} = \frac{8}{5}$ である。



7 **数学III** 【区分求積法】 **標準**

▶解答 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{S_n(m)}{n^{m+1}}$
 $= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \left(\frac{k}{n}\right)^m = \int_0^1 x^m dx$
 $= \left[\frac{x^{m+1}}{m+1}\right]_0^1 = \frac{1}{m+1}$

であるから、 $n \rightarrow \infty$ のとき

$$\frac{\{S_n(1)\}^3}{\{S_n(2)\}^2} = \frac{\left(\frac{S_n(1)}{n^2}\right)^3}{\left(\frac{S_n(2)}{n^3}\right)^2} \rightarrow \frac{\left(\frac{1}{2}\right)^3}{\left(\frac{1}{3}\right)^2} = \frac{9}{8}$$

$$\frac{\{S_n(3)\}^3}{\{S_n(5)\}^2} = \frac{\left(\frac{S_n(3)}{n^4}\right)^3}{\left(\frac{S_n(5)}{n^6}\right)^2} \rightarrow \frac{\left(\frac{1}{4}\right)^3}{\left(\frac{1}{6}\right)^2} = \frac{9}{16}$$

8 **数学I** 【散布図と相関係数】 **標準**

▶解答 x, y の分散をそれぞれ s_x^2, s_y^2 とおくと、 $s_x = 3, s_y = 2$ であり

$$0 \leq r = \frac{C}{s_x s_y} \leq 1$$

$$0 \leq \frac{C}{3 \cdot 2} \leq 1 \quad \therefore 0 \leq C \leq 6$$

また、 $z = x - y$ の分散 V について、変数 z のデータの値を $z_1 = x_1 - y_1, \dots, z_n = x_n - y_n$ とすると

$$\begin{aligned} V &= \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n (z_k - \bar{z})^2 \\ &= \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \{(x_k - y_k) - (\bar{x} - \bar{y})\}^2 \\ &= \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \{(x_k - \bar{x})^2 - 2(x_k - \bar{x})(y_k - \bar{y}) + (y_k - \bar{y})^2\} \end{aligned}$$

4 東邦大学・医学部

$$= s_x^2 - 2C + s_y^2 = 13 - 2C$$

となるから、 $0 \leq C \leq 6$ も合わせると $1 \leq V \leq 13$ である。

9 **数学Ⅲ**【体積】**標準**

▶**解答**◀ $z = t$ 上では

$$\begin{aligned} \frac{10}{3}(x+y+t-7) &\geq x^2 + \frac{y^2}{2} + \frac{t^2}{3} - 7 \\ x^2 - \frac{10}{3}x + \frac{y^2}{2} - \frac{10}{3}y &\leq -\frac{t^2}{3} + \frac{10}{3}t - \frac{49}{3} \\ \left(x - \frac{5}{3}\right)^2 + \frac{\left(y - \frac{10}{3}\right)^2}{2} &\leq -\frac{t^2}{3} + \frac{10}{3}t - 8 \\ \left(x - \frac{5}{3}\right)^2 + \frac{\left(y - \frac{10}{3}\right)^2}{2} &\leq \frac{1}{3}\{1 - (t-5)^2\} \end{aligned}$$

であるから、 E と平面 $z = t$ が交わる条件は

$$\begin{aligned} 1 - (t-5)^2 &\geq 0 \\ -1 &\leq t-5 \leq 1 \quad \therefore 4 \leq t \leq 6 \end{aligned}$$

である。 $4 \leq t \leq 6$ において

$$T = \frac{1}{\sqrt{3}}\sqrt{1 - (t-5)^2}$$

とおくと、 E の平面 $z = t$ における断面は

$$\frac{\left(x - \frac{5}{3}\right)^2}{T^2} + \frac{\left(y - \frac{10}{3}\right)^2}{(\sqrt{2}T)^2} \leq 1$$

であり、その断面積を $S(t)$ とおくと

$$S(t) = \pi T \cdot \sqrt{2}T = \frac{\sqrt{2}}{3}\pi\{1 - (t-5)^2\}$$

であるから、 E の体積は

$$\begin{aligned} \int_4^6 S(t) dt &= \frac{\sqrt{2}}{3}\pi \left[t - \frac{1}{3}(t-5)^3 \right]_4^6 \\ &= \frac{\sqrt{2}}{3}\pi \left(2 - \frac{2}{3} \right) = \frac{4\sqrt{2}}{9}\pi \end{aligned}$$

注意 【断面積の求め方】

$a > 0, b > 0$ に対して、楕円 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ によって囲まれた図形の面積は πab であることを用いた。積分してもよいし、縦に $\frac{a}{b}$ 倍して円に変換したあと、それを $\frac{b}{a}$ 倍したと考えてもよい。

10 **数学Ⅲ**【微分係数】**標準**

▶**解答**◀ $t = \sin x + \cos x$ とおくと、

$f(x) = t^{5t+\log t}$ となる。ここで、 $g(t) = t^{5t+\log t}$ とおく。微分する際に、ダッシュをつけるが、 f にダッシュがついているときは「 x について微分する」ことを表し、 g にダッシュがついているときは「 t について微分する」ことを表すことにする。

$t > 0$ なる範囲において、自然対数をとって

$$\log g(t) = (5t + \log t) \log t$$

両辺を t で微分して

$$\begin{aligned} \frac{g'(t)}{g(t)} &= \left(5 + \frac{1}{t}\right) \log t + (5t + \log t) \cdot \frac{1}{t} \\ &= \left(5 + \frac{2}{t}\right) \log t + 5 \\ g'(t) &= \left\{ \left(5 + \frac{2}{t}\right) \log t + 5 \right\} g(t) \end{aligned}$$

である。 $x = \frac{\pi}{2}$ のとき、 $t = 1$ であり、 $g(1) = 1$ も合わせると

$$g'(1) = 7 \log 1 + 5 = 5$$

である。また、 $\frac{dt}{dx} = \cos x - \sin x$ であるから、

$$f'(x) = \frac{dt}{dx} \cdot \frac{dg}{dt}$$

の両辺に $x = \frac{\pi}{2}$ を代入して

$$f'\left(\frac{\pi}{2}\right) = -1 \cdot g'(1) = -5$$

また、2階微分について

$$\begin{aligned} \frac{d^2 f}{dx^2} &= \frac{d}{dx} \left(\frac{df}{dx} \right) \\ &= \frac{d^2 t}{dx^2} \cdot \frac{dg}{dt} + \frac{dt}{dx} \cdot \frac{d}{dx} \left(\frac{dg}{dt} \right) \\ &= \frac{d^2 t}{dx^2} \cdot g'(t) + \left(\frac{dt}{dx} \right)^2 \cdot g''(t) \dots\dots\dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

ここで、 $\frac{d^2 t}{dx^2} = -\sin x - \cos x$ であり

$$\begin{aligned} \frac{d^2 g}{dt^2} &= \left(-\frac{2}{t^2} \log t + \left(5 + \frac{2}{t}\right) \frac{1}{t} \right) g(t) \\ &\quad + \left(\left(5 + \frac{2}{t}\right) \log t + 5 \right) g'(t) \end{aligned}$$

であるから、

$$\begin{aligned} g''(1) &= (-2 \log 1 + 7)g(1) + (7 \log 1 + 5)g'(1) \\ &= 7 \cdot 1 + 5 \cdot 5 = 32 \end{aligned}$$

となる。よって、 $\textcircled{1}$ において $x = \frac{\pi}{2}$ を代入して

$$\begin{aligned} f''\left(\frac{\pi}{2}\right) &= (-1)g'(1) + (-1)^2 g''(1) \\ &= -1 \cdot 5 + 1 \cdot 32 = 27 \end{aligned}$$

要の分析 山椒は小粒でもピリリと辛い。前半は穏やかだが、後半は思考力を試される良問が並ぶ。これを90分で解き切れたら大したものである。問題文が短いのが推しポイントである。
(塩崎, 久保寺, 安田亨)